

私のささやかなテニス自慢

尾嶋正治

人生の友、テニスとの出会い

私がテニスを始めたのは大学院に進んだときからですが、テニス歴はもうかれこれ41年になります。実験の合間をみて工学部5号館の壁にボールをぶつけて遊んでいたのが、人生の友、テニスとの出会いです。がんがんやり始めたのは電電公社（現NTT）に入社してからで、武蔵野研究所のテニス部に入り、我流で習得し、キャプテンも務めました。武蔵野研究所のテニス部員は当時200名くらいいましたが、対外戦（富士通戦、NEC戦、沖戦など）はほぼ全敗。私は大改革を断行（？）し、対外戦などの成績をすべて管理し、ランキングをつけ、練習日などもしっかり設けました。その結果、対外戦の勝率もぐーんと向上し、私がランキングNo.1になりました。このころは怖いものなしでしたね。電電全国大会にも出場し、120ペア以上から四回戦までを勝ち抜いてベスト16になったのが私の唯一の自慢です。

また、つくば高エネルギー加速器研究機構（KEK）の放射光研究施設にNTTのビームラインを建設して放射光実験をやっていた関係で、KEKテニス大会にも誘われました。私はKEK職員のふりをして出場し、なんと団体戦で優勝してしまいました。翌年も出たところ、彼はKEK職員ではない、とバテて失格になってしまいました…。

ファミリーテニスで研究指導の極意を会得？

ファミリーテニスを楽しもうと思い、家内や娘たちにテニスを一生懸命に教えました。しかしなかなか上手くいかず、「ボレーはこうやるんだよ。どうしてこんな簡単なことができないのかな」と言ったところ、「言われてできるぐらいなら、とっくにやっているわよ」と居直られました。まさにごもつともで、指導の難しさを痛感しました。この言葉は大学に戻ってから学生たちに研究指導をするときに大変役立ちました。つまり、「やって見せ、言って聞かせて、やらせてみて、ほめてやらねば人は動かじ」という山本五十六の名言を痛感した次第ですが、それに「できるまで待とう、ホトトギス」が加わります。これが指導の極意です。

スタンフォード大学に1年間客員研究員で滞在したときにもいろんな人達とテニスで交流できました（実はゴルフでも大いに交流を図りましたので、尾嶋は一体留学で何をしていたのか、とよく言われました）。

東大でのテニスの悲喜劇

1995年に東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻に

戻って来たときに、5号館（化学・生命系の約30研究室）のテニス大会で優勝してやるぞ、と心に誓いました。大体、NTT研究所でも勢いのある研究室はスポーツも強かったので、私はまずスポーツで勢いを付けようと思いました。研究室ガイダンスで「スポーツ好きは是非尾嶋研へ」と勧誘したら、いい学生が来てくれました。3年連続で準優勝した後、悲願の優勝を果たしました。写真は優勝した6名です（農学部テニスコート）。また、卒論生（伊藤君）とダブルスを組み、東大生協テニス大会の「一般の部」でなんと準優勝してしまいました、これは嬉しかったですね。



化学・生命系テニス大会で尾嶋研が優勝

私は学生たちとスポーツをやるのが一番の楽しみで、研究室対抗野球大会ではいつもピッチャーで4番でした。2008年の夏、その野球でピッチャーゴロを拾おうと踏み出したとたん左足アキレス腱を切りました。もうこれでスポーツができないのでは、と落ち込みましたが、気を取り直してギプスが外れてから42日間毎日足の角度を測定し、プロットしたところ、回復は一次反応の速度方程式で表されることがわかりました（回復時定数は14日）。2011年の夏には東大柏キャンパスでテニスの試合を行い、（物理学会会長の）ゆるいボールを踏み込んでバシッと打ったとたん今度は右足のアキレス腱がバシッと切れました。こちらも45日間毎日測定したところ、時定数は17日でした。私は「これは左右対称性の破れ（かぶれ？）だ」と言ったところ、家族から「単なる老化でしょ」とバサリ。しかし、駒場のガイダンスや講義でこの話をし、「化学をやっていると人生が楽しくなるよ。転んでもただでは起きないのがポイント」と言ったところ、けっこう受けて、進学希望者増加に少しは貢献できたかな、と思っています。

テニスは人生の友。一生続けていきたいですね。



おしま・まさはる

1972年東京大学工学部工業科学科卒業、74年東京大学大学院工学系研究科合成化学修士課程修了。同年日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所入社、81年スタンフォード大学客員研究員、84年工学博士（東京大学）。95年東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻・教授、2006年東京大学放射光連携研究機構・機構長、09年日本放射光学会会長、12、13年度日本化学会副会長。13年東京大学放射光連携研究機構・特任教授。専門は半導体表面化学、放射光科学
E-mail: oshima@sr.t.u-tokyo.ac.jp